

# SFC STUDENT AWARD

最新年度の情報は、公式サイトをご覧ください。  
本リストには、その前年度より9年度分を掲載しています。

## 2024年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
環境情報学部4年 *2024年9月卒業	李 浩文	コンピュータサイエンスに関する国際会議で2件の受賞をしたこと 筆頭著者として、下記を受賞した 1. Best Poster Award (IEEE Cluster 2024) 2. Outstanding Paper Award (CANDAR 2024)
総合政策学部4年 (代表者)	中野 宗 (代表者) 受賞団体名: 慶應義塾大学サイバー防犯 教育等研究会	サイバー防犯ボランティア活動として、全国の中小高校で、ネットリテラシー啓発教育活動等を行った 1 活動地域の拡大と実施数の顕著な増加で啓発活動に貢献 2 警察庁からの高評価と視察 3 読売新聞への掲載 4 震災被災地でのボランティア活動と北陸中日新聞への掲載 5 諸学校のウェブサイト等からの発信 6 名古屋市からの後援を取得 7 神奈川県警察ボランティア通信への掲載等 8 全国規模の大会での最終選考10作品に選出(3月上旬最終結果発表)
総合政策学部3年	飯村 一輝	第33回バリオリンピックでフェンシング競技男子フルール団体において金メダル獲得
環境情報学部4年	菊田 有祐	学習障害である自身の立場から衣服やアートをつくり、複数の賞を受賞し、包摂的な社会の実現に貢献した。 ・International Students Creative Award 2024 にて優秀賞を受賞 ・Asia Digital Art Award FUKUOKA 2024にて入賞 ・WIRED Creative Hack Award にてファイナリストに採択 ・SIW IMPACT<GOOD INNOVATOR> にノミネート
政策・メディア研究科 修士課程2年	羽賀 優希	景観の色彩に関する市民ワークショップの継続的開催と研究 ・市民参加による景観の色採集とクレヨンづくりのワークショップの実践的研究と受賞 ・日本建築学会「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」最優秀賞 ・日本デザイン振興会「グッドデザイン・ニューホープ賞」仕組みのデザイン部門 入賞 ・キッズデザイン協議会「キッズデザイン賞」奨励賞 ・日本建築家協会「神奈川県卒業設計コンクール」金賞 ・日本デザイン学会秋季企画大会 学生プロポジション優秀賞 他
環境情報学部4年	國武 悠人	消費者庁 令和6年度消費者支援功労者表彰内閣府特命担当大臣表彰を受賞
環境情報学部1年 (代表者)	齋藤 淳平 (代表者) 受賞団体名: Keio University Tomoshibi Technology	ロボカップ 2024世界大会 ジュニアオンステージリーグにおいて、総合優勝

## 2023年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 修士課程2年 *2023年9月修了	浜田 捺希	在学中に優れた研究業績を達成したこと 査読付き国際会議や国際ジャーナルなどでの発表
看護医療学部4年	畑山 美咲	応援指導部で2023年度の代表を務め、大会における活動は士気を高め、数々の勝利へと導いた
政策・メディア研究科 修士課程1年	赤間 凜星	トップカンファレンス NDSS 採択、ACM SACMAT '23においてポスター発表をおこなうなど、情報セキュリティ分野において顕著な研究業績をあげた。
政策・メディア研究科 後期博士課程1年	水野 史暁	・未踏アドバンスト事業採択 ・優秀論文賞/最優秀発表賞受賞
総合政策学部4年	杉山 翠	筆頭著者として国際誌への掲載や優秀な研究活動
総合政策学部4年 (代表者)	廣瀬 みお (代表者) 受賞団体名: 秋山美紀研究会 チルドレンケアラー班	長期入院児の学習支援、全国の病児学習支援団体をつなぐ全国フォーラム開催等
環境情報学部4年	佐藤 紺衣	政策提言論文の積極的な執筆と発信 1. 住友理工SDGs学生小論文アワード2023最優秀賞 2. トヨタシステムズ学生論文コンテスト2022最優秀賞 3. 住友理工SDGs学生小論文アワード2022優秀賞 4. NRI学生小論文コンテスト2021奨励賞

環境情報学部4年	財津 吉輝	第17回Motor Control研究会にて『若手奨励賞』を受賞
環境情報学部3年	國武 悠人	1.「8th Multi-stakeholder Forum on Science, Technology and Innovation for the Sustainable Development Goals」にて投稿論文が Science-Policy Briefs に採択 2.神奈川県統計報告調整審議会委員、印西市男女共同参画推進委員会委員、印西市環境推進市民会議委員をはじめとした地方公共団体附属機関での委員活動
環境情報学部4年	曾根 直樹	1. 第 50 回全日本スカッシュ選手権大会 第4位 2. 世界スカッシュ 選手権 大会 団体戦 2023 第19位

## 2022年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 修士課程2年	水野 史暁	電子情報通信学会論文誌への論文採択ならびに未踏ソフトウェア創造事業におけるスーパークリエイター認定
環境情報学部4年	中森 辰洋	学部生ながら国際会議ポスター発表、国際会議口頭発表、ジャーナル採択を達成したこと
総合政策学部4年 (代表者)	矢地 理彩奈 (代表者) 受賞団体名:琴坂将広研究会 ノービス起業家同士の インタラクション研究班	経営戦略の指導的な学術会議であるSMSの第42回年次総会(ロンドン)に採択され、研究成果を発表した。
環境情報学部4年	鈴木 結香子	国際科学雑誌への第一著者としての論文掲載と優秀な学術活動
環境情報学部3年	増井 真那	書籍出版・記事寄稿・講演・学会発表を行い、国内の変形菌研究者の第一人者として認知されるようになった。
総合政策学部4年	永田 杏里	国内、国際的に活躍し、体育会主将も務め義塾の全日本大学対抗テニス王座決定試合日本一に大きく貢献した
環境情報学部4年	貝川 裕亮	第99回箱根駅伝にて関東学生連合チームの10区アンカーとして出場
環境情報学部4年	佐藤 南帆	体育会に所属し、慶應女子史上初の2年連続日本一に貢献する他、個人で日本一、大学世界一のタイトルを得た
政策・メディア研究科 修士課程2年 (代表者)	名倉 泰生 (代表者) 受賞団体名:Bio Sculptureプロジェクト	第25回文化庁メディア芸術祭アート部門で日本人グループとして初めてソーシャルインパクト賞を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	岡本 理沙	疾患特異的に変動する遺伝子回路を公開情報から再構築し、国際科学雑誌に論文が掲載された
総合政策学部4年	牧野 太紀	津軽三味線世界大会 最高峰部門 個人 A 級 準チャンピオン受賞 「個人 A 級」は上級者の男女、年齢不問が対象者である。

## 2021年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 修士課程1年	江口 壮哉	東京2020オリンピック、パラリンピックにおいて、世界初のリサイクルプラスチックを3Dプリントして作成した表彰台を設計した。
政策・メディア研究科 修士課程1年	秀島 裕樹	・経済産業省／独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) 未踏IT人材発掘・育成事業にてスーパークリエイターとして認定

政策・メディア研究科 修士課程1年	舛村 康成	1.国内会議で受賞したこと (ア)会議名: The5thcross-disciplinaryWorkshoponComputingSystems,Infrastructures,andProgramming (イ)受賞: OutstandingResearchAward (ウ)URL:https://xsig.ipsj.or.jp/2021/program/awards/ 2.国際会議で受賞したこと (ア)会議名: 2022IEEEInternationalConferenceonBigDataandSmartComputing (イ)受賞: BestPaperAward-2ndPlace (ウ)URL:https://www.bigcomputing.org/awards.html
総合政策学部4年	小松 航大	・織田信長に仕えた黒人初の侍弥助にちなんで”アフリカと日本をつなぐ” YASUKEの設立およびYASUKE HOUSEというシェアハウスの設置運営、YASUKEマガジン発行など様々な情報発信 ・日本国内のアフリカご飯を食べる会の主催 ・活動の一部が英語のNHK WORLDで取り上げられている。Tokyo Share Houses The Latest in Communal Livingー TOKYO EYE 2020 ー NHK WORLD-JAPAN Live & Programs
総合政策学部4年 (代表者)	関根 摩耶 (代表者) 受賞団体名: Youtube「しとちゃんねる」	・2019年の開設以来、アイヌ語とアイヌ文化のコンテンツを蓄積し、他のSNSと連動しつつ、2021年度までにアイヌ語・アイヌ文化の情報発信の重要なプラットフォームへと成長した。 ・このYouTubeチャンネルでの発信が、2021年度の新聞・テレビを中心とするメディアでの関根さんおよび田原さんの活躍につながり、多文化共生へのSFCの学生の寄与を広く印象づけることになった。 ・アイヌ語の会話に関する質の高い素材を、アクセスしやすい形で提供しており、特に若者に影響力をもつコンテンツを作り出したことが、オリジナリティの面からも高く評価できる。
総合政策学部3年	中島 梨乃	・性教育ジェンダーとセクシャルティ、LGBTQなど、性に関する正しい知識を広げていく活動に一貫して取り組んでいる。 ・その活動は多方面から注目されており全国各地の人権団体や自治体等からも講演依頼がある他、マスメディアでも数多く取り上げられており社会へのインフルエンサーの地位を確立している ・青少年の啓蒙の一手段としてABEMATVの若者向けドラマの制作にもアドバイザー的に関わっている
総合政策学部2年	前田 陽汰	1. 入学時以来、「終活」にかかわる活動を積極的に展開し、高い社会的評価を得ていること。 2. コロナ禍により友人の用いにならぬという重大な社会的課題に対してオンライン追悼サービスをリリースし、多くのユーザーから深い感謝を得ていること。それを国内外にまで展開していること。 3. 現在の評価に満足せず、「死」をタブー視しない、単純な成長志向ではない、実質志向の活動を展開していること。
看護医療学部3年 (代表者)	猪村 真由 (代表者) 受賞団体名: 学生有志団体Sparkle	入院中の小児患者の遊び支援を行う学生有志団体Sparkleを立ち上げ、本年度には闘病経験のある子供たちに対してオンラインの工作ワークショップを実施するほか、完成作品を福岡のキャンナルシティ博多にて展示会を行うなど、対内外へのアプローチを成し遂げている。加えて、リアリティ番組SPINZにおいて闘病中の子供たちが抱える教育格差を切り口に、番組コンテンツの企画・実施も完遂している。また、2021年夏にはコロナ禍で打撃を受けながらも活動を保ち続けてきた慶應義塾体育会サッカー部と連携し、社会的支援を十分に得られていない療養中の子供達に、スポーツの機会を通じた社会的支援を実施した。病児を対象として、一貫して、様々な活動機会の創出に尽力し続けたことが、審査の対象となる業績である。

## 2020年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 修士課程2年 (代表者)	大日方 伸 (代表者) 受賞団体名: Color Fab	・第21回CSデザイン賞 学生部門 金賞 ・富山デザインコンペティション2020でグランプリ受賞 商品化権利獲得
政策・メディア研究科 修士課程2年	清水 瞳	・「SDGsを活用した地方再生」の研究テーマをフィールドである北海道下川町で実践するため、参与観察の手法を用いて、現地に足を運んで実際の活動に着手。 ・自身のフィールド以外の自治体にも活動が波及するなど、自治体のSDGs普及への好事例になっている。 ・国連主催のフォーラムにてフィールドの北海道下川町の取り組みの口頭発表をし、世界中から注目を集めるとともに、日本の、そして小規模自治体の世界的プレゼンスを高めた。 ・ユースの声を届けるため、そしてユースのSDGsに関する草の根活動の支援、促進のために尽力。
政策・メディア研究科 修士課程1年	坂本 嵩	下記に裏打ちされた優秀な卒業プロジェクトを提出した点 ・国際学会2019 IEEE 1st Global Conference on Life Sciences and Technologie (LifeTech 2019)において Student Paper Award (3rd Prize)を受賞し、論文が掲載された ・慶應SFC 学会第18 回学術交流大会「研究発表会・卒業プロジェクト発表」において金賞を受賞した ・学部・大学院修士4 年一貫教育プログラムに在籍し、学部を3年で卒業した
総合政策学部2年	大空 幸星	・オンラインによる孤独対策窓口の開設推進と、海外含む支援ネットワーク体制の構築 ・2万5千件を超える、コロナ禍において急増する孤独対策、支援ニーズへの取り組み ・政府、各党への孤独対策へつながる政策提言の実施

## 2019年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士課程3年	石黒 宗	・国際ゲノム会議 13th International Workshop on Advanced Genomics で最優秀ポスター賞を受賞
政策・メディア研究科 修士課程2年	菊原 魁人	①ツーリズム情報を対象とした文脈指向型意味的連想検索・プランニングシステムの構築を行い、国内外で高い評価を得た。 ②上記①について、国際論文誌1件採録、国際会議での論文発表1件、国内会議・研究報告会での論文・ポスター発表4件と、精力的な研究活動を行い、国際的な情報発信を行った。 ③上記①の国際的展開として、海外の大学とのフィールドワークおよび共同研究により、実用的なエコツーリズム支援システムを構築し、現地において高い評価を得た。
政策・メディア研究科 修士課程2年	田中 一己	「米ぬか」の食と健康をテーマにした優秀な研究成果によって ・第23回腸内細菌学会において40歳未満の発表者に贈られる「最優秀発表賞」を受賞した。 ・日本農芸化学会2019年度大会で学術的・社会的なインパクトのある発表に授与される「トビックス賞」を受賞した。 ・Miami Winter Symposium 2020 (Molecular Mechanisms Linking the Microbiome and Human Health)で、ポスター賞を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	増山 七海	・国際ゲノム会議 13th International Workshop on Advanced Genomics で優秀ポスター賞を受賞

政策・メディア研究科 修士課程2年	石原 航	・オーストリアの世界的メディアアート・フェスティバル Ars Electronicaで開催されたアートフォーラムへの招待 ・雑誌 WIRED が主催する Creative Hack Award の特別賞の受賞 ・学生CGコンテストにおける2年連続での受賞
総合政策学部4年 政策メディア研究科 修士課程2年	野原 恵祐 中島 亮介	・学生CGコンテスト アート部門 ミネート ・アジアデジタルアート大賞展FUKUOKA 学生インタラクティブアート部門 入賞
環境情報学部4年	安田 侑史	人工鮫肌を3Dプリンターによって製作して流体力学的実験を遂行し、 ・その学術論文がJournal of the Electrochemical Society誌に筆頭著者で掲載された。 ・Conference on Bio-propulsion of Adaptive Systems (Canada)で口頭発表に招待された。 ・東北大学の学術雑誌の表紙に採用された。
環境情報学部4年	越智 涼	学部での研究成果を、査読付きの国際学術雑誌「Progress in Neuropsychopharmacology & Biological Psychiatry」誌上に論文として発表する顕著な成果を挙げた為。
環境情報学部4年	谷村 朋樹	・谷村君を筆頭著者として、機械学習にもとづく映像の匿名化手法に関する研究論文「GANonymizer: 物体検出と敵対的生成を用いた映像匿名化手法」が情報処理学会論文誌、Vol.60, No.10, pp.1829-1844 (2019-10-15)に発表した。 ・研究室内で機械学習研究グループのリーダーとして、極めて熱心に後輩の指導にあたった。

## 2018年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士課程3年	花房 真理子	・日本文化政策学会の学会誌「文化政策研究」第11号に、査読付論文(熊坂賢次名誉教授との共著)が掲載された。 ・上述の査読付論文を、調査対象地域である富山県南砺市の全5図書館に寄贈した旨が、富山新聞(2018年8月21日、朝刊、31面)にて報道された。 ・こうした活動が評価されて、知的財産管理に係る国家資格「知的財産管理技能士」の有資格者団体・知的財産管理技能士会にて、「2018年度奨励賞」を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	豊島 有香	①画像データおよび時空間データ処理技術により、自然環境、特にマイクロプラスチック問題の解決に向けた研究活動を行い、国際会議での論文発表2件、国内会議での論文発表2件を行い、高い評価を得た。 ②研究成果を国連アジア太平洋経済社会委員会(UN-ESCAP)により採用されている環境分析システム5D World Map Systemの機能として実装しようと試みた。
政策・メディア研究科 修士課程2年	中宿 文絵	・上皮間葉転換(EMT)は、がんの悪性化に寄与することから治療標的として注目されており、EMTの機能に寄与する代謝機構を明らかにするため、網羅的な代謝解析を行った。 ・その結果、ヒト肺がん細胞におけるEMTではアミノ酸代謝が変化しており、抗がん剤耐性やがん転移に重要な代謝関連遺伝子を同定した。 ・本研究成果を「第6回がん代謝研究会(@奄美大島) <a href="http://toursakai.heteml.jp/for-you-service.info/gan2018/index.html">http://toursakai.heteml.jp/for-you-service.info/gan2018/index.html</a> 」で発表し、86演題中、ポスター賞金賞(1位)を受賞した。
政策・メディア研究科 修士課程2年	藤岡 華子	①文脈解釈機構を有する意味空間生成技術とIoT・ビッグデータ分析技術の融合により、実用的な地球環境・災害事象分析システム構築を行い、国内外で高い評価を得た。 ②上記①について、国際論文誌2件採録、国際会議での論文発表3件、国内会議での論文発表3件と、精力的な研究活動を行い、国際的な情報発信を行った。
政策・メディア研究科 修士課程2年	岩井 碩慶	・社会寄生種であるトゲアリの新女王が行う馬乗り行動には、宿主アリの巢仲間識別フェロモンを偽装する役割があることを解明。 ・上記の研究成果を「第9回国際ハチ目学会(9th Congress of International Society of Hymenopterists)」にて発表し、Student Poster presentation awardを受賞。 ・加えて、「第7回生命医薬情報学連合学会(Information in Biology, Medicine and Pharmacology 2018)」においても上記の研究成果を発表し、優秀ポスター発表賞を受賞。
総合政策学部3年	三上 洋一郎	内閣府「人生100年時代構想会議」への最年少有識者委員として参加したこと。 今後の大学や働き方のあり方に大きな影響をもちうるこのコンセプトに対し、現役の大学生であり同時に経営者でもある10代の候補者が、若者の代表として意見を反映させることができたのは、大きなインパクトをもたらしたと言える。また10代にして日本の未来を変える場へと踏み出し、また確固たる哲学を持ちながら、そこへ至るまでの積み重ねを欠かさなかった姿勢は、塾生としての模範を示すものである。
環境情報学部4年	井上 ひかる	・学部1年次より腸内細菌叢-宿主免疫システム間相互作用に関する研究に取り組み、今年度は本相互作用に基づく新たな解析技術を確立した。 ・確立した技術は本研究分野の発展に貢献するだけでなく、腸内細菌叢制御に基づく疾患治療といった臨床応用への実用化が期待される。 ・第58回生命科学夏の学校(日本生化学会・JST後援)にて、これまでの研究成果について題目「腸内細菌叢感作がもたらす宿主免疫応答の理解」でポスター発表を行い、若手発表賞を受賞した。
環境情報学部4年	竹内 奈穂	・「太らない砂糖」として着目される希少糖の摂取による腸内環境の変化を網羅的に解析した。その抗肥満効果のメカニズムに、新規の腸内細菌の増加が関与する可能性を初めて示唆した。 ・東京大学で開催された国際学会 Asia-Pacific Nutrigenomics and Nutrigenetics Organization 2018 Biennial Conferenceにおいて口頭発表し、国内外の優秀な研究者を抑えて Best Oral Presentationを受賞した。 ・研究活動が朝日新聞に掲載された。 ・その他、国際学会1件、国内学会6件でポスター発表を行うなど、国内外で高い評価を受けた。
環境情報学部4年 (代表者)	藤木 良祐 (代表者) 受賞団体名: Team FOX	・ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて、齋藤・藤木・天野が製作したFOXが3名の審査員により選考される「Most Creative」の1位、「Most Creative Award」を受賞した。 ・またさらに、そのコンテストの中で、学会参加者の投票によって決まる「People's Choice」の1位である「People's Choice Award」も受賞した。
環境情報学部4年 (代表者)	渡辺 基暉 (代表者) 受賞団体名: Team VoiSports	・ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて、渡辺。富澤・坂田が製作したVoiSportsが3名の審査員により選考される「Most Creative」の2位、「Honorable Mention」を受賞した。
環境情報学部4年 (代表者)	伊藤 光平 (代表者) 受賞団体名: 日本の都市環境メタゲノム 調査プロジェクト「GoSWAB」	・臭素酸還元能を持つRhodococcus sp.Br-6のゲノム解析論文がJournal of Genomics誌に掲載された。 ・経済史Forbesの選ぶ世界を変える30歳未満の30人「30 UNDER 30」に選出された。

環境情報学部4年	栗川 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手宮城内陸地震で被災した「駒の湯温泉」の復興に3年にわたって尽力してきた。</li> <li>・被災10年となる2018年が開湯400年となることを発見し、その歴史を大量のインタビューと詳細な文献調査によって丹念に掘り起こし、これを冊子にまとめて復興のメルクマールとした。</li> <li>・これらの取り組みは広く注目を集め、朝日新聞、毎日新聞、NNN、NHKなど多くのメディアに報じられ、「駒の湯温泉」の復興を広く伝えることに貢献した。現在、400年目で活動を終わらせず、さらなる展開を企画している。</li> </ul>
環境情報学部3年	酒井 彩乃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度好熱菌の国際ワークショップ International workshop on "50th anniversary of Thermus thermophilus discovery"にてポスター賞(Poster Presentation Award)に選ばれた。</li> </ul>

## 2017年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士2年	ラフマワ イレネ エルリン W.	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究活動成果:国際論文誌における研究成果論文発表2件、国際会議における研究成果論文発表5件(内、1件はBest Paper Award受賞)</li> <li>②特筆すべき対外活動:国際シンポジウムへの慶應義塾大学院生代表としての参加、国際的研究機関でのインターンシップと共同研究実施、国連SDGsワークショップヘリデーディング大学院GESLプログラム選抜学生として参加</li> <li>③ 実用的システムの構築</li> </ul>
総合政策学部4年 (代表者)	今井 隆文 (代表者) 受賞団体名: Team FLEXA	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザインターフェース研究の国際会議の中のトップカンファレンスであるACM UIST 2018の中で開催されたStudent Innovation Contestにおいて今井隆文、毎熊優介、長谷川龍哉が制作したFLEXAがMost Creative Award (Honorable mention)を受賞した。ほとんどの参加チームが大学院生からなるコンテストにおいて受賞したことは、学部から研究活動に勤しむSFCらしい成果である。またこの制作は今井および毎熊の卒業プロジェクトとは別に行われたものであり、その努力は讃えるべきものである。</li> </ul>
総合政策学部4年	メ田 祐奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駐日韓国大使館韓国文化院と神田外語大学主催、駐日韓国文化院世宗学堂共催で開催された「話してみよう韓国語」東京・学生/一般「全国学生韓国語スピーチコンテスト」のスピーチ部門で、最優秀賞を受賞した。</li> <li>・大学で入門・初級-中級-上級と段階ごとの朝鮮語教育を受けたわけではなく、独学をベースとして学習を進めてきた学生が最優秀賞に至ったのは、極めてまれなケースといえる。</li> <li>・また当学生は過去にも毎年のように朝鮮語に関する活動で成果を上げており、今回の受賞はこうした一連の努力の結果であり、特筆に値する。</li> </ul>
環境情報学部4年	永田 祥平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数千種に及ぶ大規模なヒト免疫不全ウイルス(HIV)ゲノム解析により、その進化の様相を可視的に明らかにし、ウイルス系統が様々なグループへと分化していく際に重要となる酵素上の領域を特定した。</li> <li>・本研究成果をまとめた論文が「Frontiers in Microbiology」誌に掲載された。</li> </ul>
環境情報学部3年 (代表者)	伊藤 光平 (代表者) 受賞団体名:日本の都市環境メタゲノム調査プロジェクト「GoSWAB」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東大オンラインメディア「UneeT」、慶應 SFC オンラインメディア「SFC CLIP」での特集、国際学会「3rd Annual Conference on MetaSUB」、国内学会「生命医薬情報学連合大会」でのメンバーのポスター発表。</li> <li>・高校生と高校でのサンプリングを行い、地元の新聞紙「荘内日報」で取り上げられた。</li> <li>・HPを作成し、活動を学外にも広め1年で10箇所以上500サンプルを集めた。</li> </ul>
環境情報学部3年 (代表者)	金子 紗由香 (代表者) 受賞団体名: Team BHD	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年5月より、若年女性向け基礎体温記録手帳「BEAUTY &amp; HEALTH DIARY」を開発し、それを用いて東京都・神奈川県の高次大学計5校で健康教育及び調査を実施(2018年2月に一般向けに出版・販売予定)。</li> <li>・高校で調査したデータを解析し、2017年日本学校保健学会第64回学術大会にてポスター発表。同じく2017年第32回日本女性医学学会学術集会にてポスター、口頭発表。口頭発表は日本女性医学学会の推薦を頂戴し、論文掲載予定。</li> <li>・新宿ルミネエストにて、社内セミナーを実施。神奈川県主催の健康イベントに参加。</li> <li>・2017年4月、「神奈川県未病女子アンバサダー」に任命され、神奈川県を中心として健康情報を発信。</li> <li>・国立成育医療センターと共同で、若年女性の健康意識改革に取り組み、2017年プレコ(プレコンセプション・ケア)として全国の若年女性向けの健康意識改革を展開。</li> <li>・活動内容が朝日新聞、読売新聞、神奈川新聞、慶應塾生新聞、からだにいいことpreco、その他ラジオやwebメディアで取り上げられた。</li> </ul>
看護医療学部4年	小林 可奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究会・所属教室ですでに取り上げられていたテーマではなく、推薦学生が独自に発案し、2年近くの準備期間を経て、單身インドに出向いて実施し、まとめた研究成果である。</li> <li>②ディリー郊外の住宅街において突出して高い予防接種率が見られる背景には、無償化などの医療政策のみならず、医療者による対象者(子どもとその保護者)への密接な関わり方という重大な要因が存在していることを検証した。</li> <li>③上記研究成果を(日本国内で開催された)国際学会で発表した。全279演題のうち、学部生単独での発表は9題のみ、さらにその中でも海外でのフィールドワークに基づく実践研究の成果を報告したものは2題に過ぎなかったことから、当該発表の希少性が窺える。</li> </ul>
看護医療学部3年 (代表者)	佐藤 彰恵 (代表者) 受賞団体名: My Own Place ~成長に愛を~(MOP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所作りを目的に、食事を提供したり、勉強を教えたりするといった社会的意義のある活動をしている。</li> <li>・本団体の活動は高く評価されており、日経新聞やTBSラジオ等、様々なメディアで取り上げられている。</li> </ul>

## 2016年度

所属	受賞者(代表)	受賞内容
政策・メディア研究科 博士1年	坂村 美奈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年10月にニューヨークで行われた国際会議MobiCom2016内で開催されたモバイルアプリコンテストACM MobiCom 2016 Mobile app Contest で研究開発したモバイルアプリケーション「Lokemon」が優勝した(Mobicomは、アメリカ計算機学会(ACM) SIGMOBILEが主催する、モバイルコンピューティングと通信に関する世界最高峰の国際会議で、今年で22回目の開催)。</li> <li>・今回の優勝は、日本人としては初めての快挙。</li> <li>・モバイルアプリだけでなく、「Lokemon: Location-specific Monsters as a Sensor」という論文も口頭で発表され、高い評価を受けた。</li> </ul>
政策・メディア研究科 修士1年	渡部 翔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビフィズ菌は大腸がんや腸管病原性の疾患の予防効果を持つことで近年注目されている。渡部君は、ビフィズ菌の腸内定着メカニズムを解明するために、網羅的に腸内細菌のゲノム解析を行った。</li> <li>・その結果、ヒトの腸内に棲息しているビフィズ菌の種類は個人によって異なり、各個人の腸内環境に大きく左右されることが示唆された。</li> <li>・この研究成果は上海で開催された国際学会MetaSUB conferenceにおいて発表し、Travel Awardを受賞した。</li> </ul>
総合政策学部4年	城内 香葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度日本学生支援機構優秀学生顕彰の文化・芸術分野において大賞を受賞。以下に掲げる国際的なコンクール等で入賞以上の成績や、日本を代表する全国的規模のコンクール等で特に優れた成績を収めたことが評価された。</li> <li>・第11回日台文化交流青少年スカラシップ 作文部門 優秀賞</li> <li>・NRI学生小論文コンテスト2014 大学生の部 大賞</li> <li>・第60回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 一般の部 最優秀賞</li> </ul>

総合政策学部4年	千葉 佳織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年11月に開催された第61回文部科学大臣杯全国青年弁論大会 一般の部において、準優勝(優秀賞)の成績を収めた。</li> <li>・本人は、大学時代を通じて本大会に出場しており、2013年度に準優勝、2014年度には最優秀賞を獲得している。これらの積み重ねのうえでの今年度の実績は、非常に意義が大きいと考える。</li> </ul>
環境情報学部4年	夏川 遼生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が2年次より継続している都市域のオオタカの研究をまとめた論文が、猛禽類に関わる最も代表的なジャーナルである「Journal of Raptor Research」に掲載されることになった。ゼロからフィールドワークを始め、短期間で国際誌に掲載されるまでの実力をつけたことは、学部生としては顕著な実績である。</li> <li>(論文名: FACTORS AFFECTING BREEDING SITE SELECTION OF NORTHERN GOSHAWKS AT TWO SPATIAL SCALES IN URBANIZED AREAS)</li> </ul>
環境情報学部4年	引地 志織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的トップカンファレンスであるIEEE 11th International Conference on Semantic Computing (IEEE ICSC 2017) にFull paper採録および研究発表(2017年1月30日～2月1日発表)。</li> <li>・国際論文誌1件採録、国際会議での論文発表2件、国内会議での論文発表2件と、データマイニング分野と生命科学分野という異分野を融合した研究活動を行い、国内外で高い評価を得た。</li> </ul>
環境情報学部4年	吉田 桃子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人がデザインと制作に取り組んでいる、江戸切絵図の図式で現代の都市空間を描画する「現代の切絵図」が、国土交通省国土地理院が主催する地理空間情報活用推進イベント「G空間EXPO」内で開催されたGeoアクティビティコンテストにおいて、企業・学校を含む全国からの応募の中、審査員の投票2位となり「審査員特別賞:地図デザイン賞」を受賞、地理情報系の多くのメディアで報道・紹介された。</li> <li>・2016年度日本生活学会全国大会でその制作プロセスを口頭発表して好評を得た。</li> <li>・2016年度日本生活学会研究助成「生活学プロジェクト」の助成に採択された。</li> <li>・新しい地図表現によって現代の都市を批評的に読解するという視覚芸術活動として、雑誌「東京人」、デザイン雑誌「コンフォルト」に掲載・紹介された。</li> </ul>
環境情報学部4年	岩井 碩慶	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケンランアリスアブは絶滅危惧II類に指定されている希少種であり、本種の生態や幼生の形態に関する情報はこれまで得られていなかった。本研究のフィールドワークによって、ケンランアリスアブは幼生期をアリの巣の中で過ごすことが明らかになった。</li> <li>・今回得られたケンランアリスアブの生態学的知見、および幼生の形態学的知見は、本種の保全につながるかと期待される。</li> <li>・このことをまとめた論文が「Biodiversity Data Journal」誌にPublishされた。</li> </ul>
環境情報学部2年	伊藤 光平	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨウ素は人間にとって必須の物質で、体内では甲状腺ホルモンの構成成分として重要な役割を担っている。また、日本はヨウ素の生産で南米チリに次ぐ世界シェア2位を誇っており、特に千葉県房総半島のヨウ素埋蔵量は世界最大規模である。千葉大学の天知らが海洋環境から発見した土壌微生物Arenibacter C-21株は、ヨウ素を細胞内に蓄積することが知られている。</li> <li>・本研究では、この興味深い環境微生物の全ゲノム配列を決定し、データベースへの登録、遺伝的特徴(GC含量、遺伝子数、塩基対数)の解析を行った。</li> <li>・この研究をまとめた論文が「Genome Announcements」誌にPublishされた。</li> </ul>
看護医療学部4年 (代表者)	難波 英里 (代表者) 受賞団体名: 大谷研究会 「眼鏡型ウェアラブルセンサーを用いた動作解析プロジェクト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護医療学部4年の大谷研究会のプロジェクトに参加した4名がチームを組み、各自の身近な疑問(clinical question)をスタートとして協力しながらresearch questionに落とし込み、眼鏡型ウェアラブルセンサーをうまく活用して自分が一番知りたかった事に解を見つけた点。</li> <li>・得られたそれぞれの新知見は、すぐに現場に活用可能で、スポーツパフォーマンスの向上、柔道の重度外傷予防、手話の上達の早期化、安全に歩ける厚底靴の高さなど、具体的な成果が期待できる点。</li> </ul>